

青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020
点検・評価報告
(令和元年度実績)

令和 2 年 10 月
青森市民病院・青森市立浪岡病院

目次

1	青森市公立病院改革プラン2016-2020 点検評価について	1
2	令和元年度の主な取組と決算概況（市民病院）	2
3	改革プランの計画値と令和元年度実績との比較（市民病院）	2
4	令和元年度の主な取組と決算概況（浪岡病院）	10
5	改革プランの計画値と令和元年度実績との比較（浪岡病院）	10
6	地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（市民病院、浪岡病院）	17
7	再編・ネットワーク（市民病院、浪岡病院）	17
8	経営形態見直し（市民病院、浪岡病院）	17
9	自己評価	18

（別紙1）収支計画【市民病院】

（別紙2）収支計画【浪岡病院】

青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020 点検・評価 (令和元年度実績)

1 青森市公立病院改革プラン 2016-2020 点検評価について

青森市では、青森市民病院（以下「市民病院」という。）及び青森市立浪岡病院（以下「浪岡病院」という。）の果たすべき役割を明確化するとともに、病院収支の改善や経営基盤の強化などを通じて、持続可能な病院経営を目指すため、「青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020（以下「改革プラン」という。）」を平成 29 年 5 月に策定しました。

更には、地域医療に携わる有識者の方々に構成する「青森市地域医療に関する有識者会議」を開催し、「改革プラン」に掲げた市民病院の病床規模の見直しや、浪岡病院の将来のあり方などについて頂いた御意見をもとに、新たな取組を加え、早期に取り組まなければならない事項として『「青森市公立病院改革プラン 2016 - 2020」の加速化に向けて（以下「加速化プラン」という。）』を平成 29 年 12 月に取りまとめ、経営改善に取り組んできているところです。

この「改革プラン」につきましても、決算状況を踏まえ、毎年、点検・評価することとしております。

なお、「改革プラン」に掲げた令和元年度の計画値は、平成 29 年度 5 月時点の病床数及び平成 28 年度決算見込値を基礎数値として設定したものです。

令和元年度決算に基づく、市民病院及び浪岡病院の点検・評価の結果は以下のとおりです。

市民病院

2 令和元年度の主な取組と決算概況（市民病院）

（1）主な取組内容

令和元年度の主な取組内容については、

- ア 産科病棟におけるプライバシーに配慮した病室へのリニューアルと「お祝い膳」、「胎児超音波画像」の提供
- イ 医療法人芙蓉会との「医療機能連携協定」締結による精神的ケアサポートチームの派遣受入
- ウ 平成30年度に実施した特室のリニューアルに伴う料金改定（令和元年4月1日～）
- エ 文書料金の改定（令和元年10月1日～）
- オ 新たな診療報酬加算の取得
- カ ベンチマークシステムを活用した薬品や診療材料のコスト縮減などに取り組んできたところです。

（2）決算の概況

① 患者の利用状況

患者の利用状況を年延数で見ると、外来延患者数は186,798人で、前年度（186,586人）に比べ212人、0.1%の増となりました。

また、入院延患者数は114,145人で、前年度（111,431人）に比べ2,714人、2.4%の増となり、病床の利用率を示す病床利用率は67.9%で、前年度（66.5%）に比べ1.4ポイントの増となりました。

② 財政状況

事業収益は、患者数が入院・外来とも増加したことにより、医業収益は8,986,816千円で、前年度（8,963,288千円）に比べ23,528千円増加したものの、医業費用を賄うことができないことなどに伴う一般会計からの基準外繰入金460,000千円による特別利益の増加により、10,352,017千円で、前年度（10,195,788千円）に比べ156,229千円、1.5%増加しました。

一方、事業費用は、材料費は減少したものの、給与費や資産減耗費等の増加により、10,728,316千円で、前年度（10,470,763千円）に比べ257,553千円、2.5%増加しました。

この結果、376,299千円の当年度純損失となりました。

3 改革プランの計画値と令和元年度実績との比較（市民病院）

計画の計画値については、平成29年5月時点の病床数（538床）を基礎数値として設定しており、平成30年10月に実施した病床のダウンサイジングにより、病床の効率的な稼働を示す病床利用率は計画値を上回りました。

収入においては、

- ア 入院収益について、延患者数が計画値を下回り、また、手術件数の減少等の影響により診療単価が計画値を下回ったことにより、計画値より1,118,239千円下回ったこと、
 - イ 外来収益について、診療単価が計画値を上回ったものの、延患者数が計画値を下回ったことにより、計画値より122,958千円下回ったこと、
- などの理由により、経常収益が計画値より1,326,912千円下回りました。

また、支出については、

- ウ 病床のダウンサイジングの影響等により、職員給与費が計画値より118,289千円、また、ベンチマークシステムの活用等により、薬品費や診療材料費などの材料費が計画値より482,967千円下回ったこと、

などの理由により、経常費用が計画値より 756,484 千円下回ったものの、収入の減が支出の減を上回ったことから、経常損益についても計画値より 570,428 千円悪化したところです。

なお、特別利益及び特別損失を含んだ純損益について、特別利益については、他会計繰入金として、一般会計からの基準外繰入金 460,000 千円に、過年度の職員手当の返納等による過年度損益修正益 2,334 千円を加え、合計 462,334 千円となり、純損益は計画値より 108,115 千円悪化し、資金不足額は計画値より 902,948 千円上回ったところです。

【収入】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
ア	病床利用率	67.0%	67.9%	+0.9 P
	入院延患者数	131,928 人	114,145 人	△17,783 人
	入院収益	7,488,365 千円	6,370,126 千円	△1,118,239 千円
	入院診療単価	56,761 円	55,807 円	△954 円
イ	外来延患者数	207,766 人	186,798 人	△20,968 人
	外来収益	2,279,816 千円	2,156,858 千円	△122,958 千円
	外来診療単価	10,973 円	11,546 円	+573 円
経 常 収 益 計		11,216,595 千円	9,889,683 千円	△1,326,912 千円

※病床利用率については計画値：538 床、実績値：459 床による算定。実績値：538 床とした場合の病床利用率は 58.0%で、計画値より 9.0%減となる。

【支出】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
ウ	職員給与費	5,558,614 千円	5,440,325 千円	△118,289 千円
	材料費	2,861,077 千円	2,378,110 千円	△482,967 千円
経 常 費 用 計		11,484,779 千円	10,728,295 千円	△756,484 千円

【損益、資金不足】

項 目	計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
経常損益	△268,184 千円	△838,612 千円	△570,428 千円
純損益 (特別利益・損失含む)	△268,184 千円	△376,299 千円	△108,115 千円
資 金 不 足 額	792,778 千円	1,695,726 千円	+902,948 千円

(I) 医療機能等指標に係る数値目標

項 目	令和元年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
紹介率	80.0%	82.4%	+2.4 P
逆紹介率	65.0%	73.3%	+8.3 P
手術件数	3,033 件	2,736 件	△297 件
救急車受入件数	2,788 件	2,504 件	△284 件
臨床研修医数	20 人	20 人	－

(II) 経営指標に係る数値目標

項 目	令和元年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
1) 収支改善に係るもの			
経常収支比率	97.7%	92.2%	△5.5 P
医業収支比率	93.1%	87.8%	△5.3 P
経常損益額	△268,184 千円	△838,612 千円	△570,428 千円
資金不足額	792,778 千円	1,695,726 千円	+902,948 千円
資金不足比率	7.8%	18.8%	+11.0 P
2) 経費削減に係るもの			
材料費対医業収益比率	28.0%	26.5%	△1.5 P
後発医薬品使用割合	80.0%	91.1%	+11.1 P
3) 収入確保に係るもの			
病床利用率	67.0%	67.9%	+0.9 P
1日当たり入院患者数	360.5 人	311.9 人	△48.6 人
1日当たり外来患者数	851.5 人	775.1 人	△76.4 人
入院診療単価	56,761 円	55,807 円	△954 円
外来診療単価	10,973 円	11,546 円	+573 円
4) 経営の安定性に係るもの			
医師数	57 人	59 人	+2 人
看護職員数	367 人	358 人	△9 人
一時借入金残高	1,800,000 千円	1,900,000 千円	+100,000 千円
他会計借入金残高	574,430 千円	574,430 千円	－

※病床利用率については計画値：538床、実績値：459床による算定。実績値：538床とした場合の病床利用率は58.0%で、計画値より9.0%減となる。

(Ⅲ) 数値目標達成に向けての具体的な改革プランの取組計画及び実績 **※加速化プラン追記**

項目	計画		令和元年度実績		
①安定した医療提供体制の確保	【ア 医療従事者の確保対策】 数値目標（再掲）				
	医師数	57人	59人	+2人	
	看護職員数	367人	358人	△9人	
	<ul style="list-style-type: none"> ・弘前大学に対する医師派遣要望の継続 ・病院ホームページ等を活用した公募による医師確保 ・呼吸器内科・精神神経科の診療再開 ・看護職員及び医療技術職員の増員及び育成 ・医療従事者の負担軽減のための医師事務作業補助者及び看護補助者の増員、研修によるスキルアップ ・魅力ある職場づくりによる新規採用者の増及び離職者の減 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年2月に派遣元の弘前大学に対し、医師派遣要請を行うとともに、全国自治体病院協議会の医師求人支援センターや、市民病院のホームページにおいて医師の公募を実施した。 ・休診診療科の再開には至らなかったものの、現状の診療科常勤医師数は、前年度に比べ2名増となり、目標値を上回った。 		達成
	※加速化プラン 【医療機能】 <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科設置の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員数は目標値を下回っているものの、看護師の充足度の指標となる数値100床当たり看護師数で見ると、目標値（538床）68.2人に対し、実績値（459床）78人と手厚い看護体制となっていることを踏まえ、評価は達成とした。 ・7対1看護体制は維持している。 ・令和元年度は脳卒中リハビリテーションの分野で1名認定看護師となり、認定看護師は11名となった。 		達成
【イ 臨床研修医指導・育成】 数値目標（再掲）					
臨床研修医数	20人	20人	-		
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある臨床研修プログラムの作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修医数は、平成30年度採用10人（募集10人）と、令和元年度の10人（募集に対しフルマッチ）の20名となった。 		達成	

	【ウ 急性期機能の維持・強化】 数値目標（再掲）			
	手術件数	3,033 件	2,736 件	△297 件
	救急車受入件数	2,788 件	2,504 件	△284 件
	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送患者の積極的、効率的な受け入れ体制の構築 医療機器の更新や最新機器の導入による高度医療提供体制の維持 ※加速化プラン 【医療機能】 <ul style="list-style-type: none"> 救急患者の受け入れ体制の強化 【更なる経営改善に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none"> 救急患者の受け入れ体制の強化（再掲） 		<ul style="list-style-type: none"> 手術件数は、目標値を下回った。 救急車の受入件数は、前年度に比べ101件減の2,504件で目標値を下回った。 総合医療情報システムや全身用X線CT撮影装置を更新する等、医療水準の維持・向上を図った。 	未達成
	【エ その他】			
	※加速化プラン 【組織体制の見直し】 <ul style="list-style-type: none"> がん診療支援室の設置 		《平成30年度に実施済》 <ul style="list-style-type: none"> がん診療推進室の設置により、がん診療に関する院内の連携強化を図るとともに、患者や家族に対する切れ目のないケアの提供を図った。 	達成
②医療機能、医療需要に見合う病床規模へのダウンサイジング	<ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率及び医療需要に見合った病床削減数の検討 チーム医療の推進を図るために必要な職員の増員及び配置 病床を削減する際には、大部屋を現在より少人数とし、療養環境の向上を図る ※加速化プラン 【院内スペースの有効活用】 <ul style="list-style-type: none"> 下層階の活用 上層階の活用 【稼働病床の適正化】 <ul style="list-style-type: none"> 79床の病床を削減し、459床とする 		《平成30年度に実施済》 <ul style="list-style-type: none"> 病床数を538床から459床へと適正な病床規模へのダウンサイジングを実施した。 空きスペースを活用し、がん対策の充実・強化を図るための「がん診療推進室」の設置及び「がん相談支援センター」を開設するとともに、医療従事者が働きやすい環境づくりとして「ラウンジ」を設置した。 	達成

③病院経営を 継続していく ための強い経 営体質への転 換	【ア 地域連携の強化による紹介患者数の増】 数値目標（再掲）			
	紹介率	80.0%	82.4%	+2.4P
	逆紹介率	65.0%	73.3%	+8.3P
	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携室の体制強化による紹介実患者数の増 地域の医療機関との連携強化 医療機器共同利用の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 紹介率・逆紹介率とも目標値を上回った。 令和元年12月から、地域の医療機関に対し訪問活動を行い、併せて、脳神経外科、心臓血管外科、外科の診療内容に関するチラシを作成し、より親しみの持てる医療機関として認識していただけるよう広報活動を行った。 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は訪問活動を自粛し、チラシによる広報活動のみ実施。) 	
	※加速化プラン 【更なる経営改善に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携の強化・ネットワークの構築 		達成	
	【イ その他患者数の増対策】 数値目標（再掲）			
	病床利用率	67.0%	67.9%	+0.9P
	1日当たり入院患者数	360.5人	311.9人	△48.6人
	1日当たり外来患者数	851.5人	775.1人	△76.4人
	<ul style="list-style-type: none"> 接遇対策による病院のイメージアップの継続 ホームページや市広報誌などによる市民病院からの情報発信 救急搬送患者の積極的、効率的な受け入れ体制の構築（再掲） 受診しやすい環境の提供 		<ul style="list-style-type: none"> 接遇の重要性を浸透させるため研修を行なった。 ホームページや広報誌「ほほえみ」を発行し、情報発信を行なった。 1日当たり入院患者数は、前年度に比べ6.6人増の311.9人、1日当たり外来患者数は、前年度に比べ10.4人増の775.1人と、ともに前年度に比べ増となったが、目標値を下回った。 市民病院でお産されるかたに、プライバシーに配慮した快適な入院生活を送っていただくため、病室をパーティション等で仕切るとともに、ベンチシート付家具等を設置するなど産科病室をリニューアルした。 	
※加速化プラン 【医療機能】 <ul style="list-style-type: none"> 救急患者の受け入れ体制の強化（再掲） 【更なる経営改善に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none"> 接遇向上に向けた取組みの院内への浸透 		未達成		

		<p>また、胎児超音波画像DVDや、お祝い膳を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人芙蓉会と「医療機能連携協定」を締結し、精神的ケアサポートチームを派遣していただき、入院患者の精神的ケアの充実を図った。 	
【ウ 診療単価の増】 数値目標（再掲）			
入院診療単価	56,761 円	55,807 円	△954 円
外来診療単価	10,973 円	11,546 円	+573 円
<ul style="list-style-type: none"> ・各種加算取得 ・DPC 機能評価係数Ⅱ対策 ・診療報酬の請求漏れを防ぐため、定期的に院内研修会を実施 <p>※加速化プラン</p> <p>【更なる経営改善に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定への迅速な対応 		<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析システムの活用や新規加算を取得する等、診療単価の増に努め、外来診療単価は目標値を上回ったが、手術件数の減により入院診療単価は目標値を下回った。 	未達成
【エ 価格交渉による材料費の削減及び集約化】 数値目標（再掲）			
材料費対医業収益比率	28.0%	26.5%	△1.5P
<ul style="list-style-type: none"> ・価格交渉のコンサルタント導入による診療材料費の削減 ・薬事委員会や診療材料委員会における使用品目の集約化の推進 <p>※加速化プラン</p> <p>【更なる経営改善に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療材料のたな卸しの実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・薬品費については、ベンチマークシステムを活用した価格交渉により経費削減を図るとともに、診療材料費については、コンサルタントやMRPベンチマークシステムを活用した価格交渉により経費削減を図り、材料費対医業収益比率は目標値を達成した。 ・診療材料の更なる節減及び業務の効率化を図るため、SPD業務について専門的知識を有する業者に委託することとした。（令和2年度から委託化） ・診療材料のたな卸しを毎月実施し、在庫管理の適正化に努めた。 	達成

	【才 後発医薬品の使用割合向上】 数値目標（再掲）			
	後発医薬品使用割合	80.0%	91.1%	+11.1P
	・後発医薬品への積極的な切り替え	・後発医薬品への積極的な切り替えにより、使用割合は目標値を上回った。		達成
④上記以外の加速化プランに掲げた取組	【危機管理体制の強化】 ・医療安全管理室を中心とした医療安全管理体制の充実 ・災害拠点病院としての業務継続計画（BCP）の策定と、それに必要な研修や訓練の実施	・医療安全マニュアルを各部署に配置し、共有・遵守に努めた。 ・策定したBCPに基づき、令和2年3月に研修・訓練を実施した。		達成
	【更なる経営改善に向けた取組】 ・専属職員の配置による経営コンサルタントの有効活用	・令和元年9月から、新たな経営コンサルタントを迎え、専属職員とコンサルタントと連携による院内各部局の調整を図った。		達成
	【更なる経営改善に向けた取組】 ・医療関係の業務を行なっている企画部門を事務局医事課に集約化し、「(仮称) 経営企画T」を新設	《平成30年度に実施済》 ・事務局総務課に設置した「経営企画チーム」において、改革プランの総括的な管理や経営改善に向けた取組の調整を行った。		達成

(IV) 各年度の収支計画

別紙1のとおり

浪岡病院

4 令和元年度の主な取組と決算概況（浪岡病院）

（1）主な取組内容

令和元年度の主な取組内容については、

ア 在宅療養支援病院として、在宅医療の支援に注力

イ 令和3年5月の新病院開院を目指し、令和2年2月に新築工事に着手

ウ 平成31年2月に青森市と株式会社フィリップス・ジャパンとの連携協定による「ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト」として、令和2年度から浪岡地区において実施する「モビリティを活用した予防サービス事業」及び「IoTを活用したみまもりサービス事業」について、その円滑な事業実施に向け、実証プログラムを実施などに取り組んできたところです。

（2）決算の概況

① 患者の利用状況

患者の利用状況を年延数で見ると、精神神経科医師の非常勤化に伴い外来延患者数は31,526人と、前年度（35,685人）に比べ4,159人、11.7%の減となりました。

また、入院延患者数は7,460人で、前年度（5,947人）に比べ1,513人、25.4%の増となり、病床の利用率を示す病床利用率は58.2%で、前年度（46.6%）に比べ11.6ポイントの増となりました。

② 財政状況

事業収益は、休職していた内科常勤医が復職したこと等により入院患者数が増加し、医業収益は567,704千円で、前年度（551,250千円）に比べ16,454千円増加したものの、医業費用を賄うことができないこと及び新病院開院に向けて、過去の累積資金不足額を清算するための一般会計からの基準外繰入金803,409千円による特別利益の増加により、1,462,293千円で、前年度（1,119,533千円）に比べ342,760千円、30.6%増加しました。

一方、事業費用は、給与費や材料費の減少等により、860,264千円で、前年度（1,145,727千円）に比べ285,463千円、24.9%減少しました。

この結果、602,029千円の当年度純利益となりました。

5 改革プランの計画値と令和元年度実績との比較（浪岡病院）

計画値については、平成29年5月時点の病床数（一般病床92床、精神神経科病床107床）を基礎数値として設定しており、平成30年10月に実施した精神神経科病床の廃止、一般病床のダウンサイジングにより、病床の効率的な稼働を示す病床利用率は計画値を上回ったものの、

収入においては、

ア 入院収益について、精神神経科病床廃止により、診療単価が計画値を上回ったものの、患者数が計画値を下回ったことにより、計画値より274,496千円下回ったこと、

イ 外来収益について、診療単価は計画値を上回ったものの、小児科及び精神神経科医師の非常勤化により、患者数が計画値を下回ったことにより、計画値より59,794千円下回ったこと、などの理由により、経常収益が計画値より453,218千円下回り、

また、支出については、

ウ 精神神経科病床の廃止に伴う職員数の減少等により、職員給与費が計画値より148,309千円、また、薬品費や診療材料費などの材料費が計画値より77,959千円下回ったこと、

などの理由により、経常費用が計画値より272,971千円下回ったものの、収入の減が支出の減を

上回ったことから、経常損益についても計画値より 180,247 千円悪化したところです。

純損益については、新病院開院に向けて、過去の累積資金不足額を清算するため一般会計からの基準外繰入金 803,409 千円による特別利益の増加により、計画値より 622,953 千円改善し、平成 25 年度から発生していた資金不足額は解消されたところです。

【収入】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
ア	病床利用率	32.3%	58.2%	+25.9P
	入院延患者数	23,479 人	7,460 人	△16,019 人
	入院収益	505,047 千円	230,551 千円	△274,496 千円
	入院診療単価	21,511 円	30,905 円	+9,394 円
イ	外来延患者数	46,158 人	31,526 人	△14,632 人
	外来収益	252,266 千円	192,472 千円	△59,794 千円
	外来診療単価	5,465 円	6,105 円	+640 円
経 常 収 益 計		1,112,102 千円	658,884 千円	△453,218 千円

※病床利用率については計画値：199 床（一般 92、精神 107）、実績値：35 床（一般 35、精神 0）による算定。実績値：199 床とした場合の病床利用率は 10.2%で、計画値より 22.1%減となる。

【支出】

項 目		計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
ウ	職員給与費	712,777 千円	564,468 千円	△148,309 千円
	材料費	146,234 千円	68,275 千円	△77,959 千円
経 常 費 用 計		1,133,006 千円	860,035 千円	△272,971 千円

【損益、資金不足】

項 目	計 画	実 績	比 較 (実績－計画)
経常損益	△20,904 千円	△201,151 千円	△180,247 千円
純損益（特別利益・損失含む）	△20,924 千円	602,029 千円	+622,953 千円
資 金 不 足 額	659,906 千円	－	皆減

(I) 医療機能等指標に係る数値目標

項 目	令和元年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
紹介率	11.6%	20.1%	+8.5 P
逆紹介率	11.4%	22.1%	+10.7 P
救急搬送件数	200 件	186 件	△14 件
訪問看護件数	350 件	469 件	+119 件

(II) 経営指標に係る数値目標

項 目	令和元年度		比 較 (実績－計画)
	計 画	実 績	
1) 収支改善に係るもの			
経常収支比率	98.1%	76.6%	△21.5 P
医業収支比率	79.5%	67.9%	△11.6 P
経常損益額	△20,904 千円	△201,151 千円	△180,247 千円
資金不足額	659,906 千円	—	皆減
資金不足比率	75.5%	—	解消
2) 経費削減に係るもの			
職員給与費対医業収益比率	81.6%	99.4%	+17.8 P
材料費対料金収入比率	19.3%	16.1%	△3.2 P
3) 収入確保に係るもの			
病床利用率（一般）	26.5%	58.2%	+31.7 P
病床利用率（精神）	35.4%	—	—
病床利用率（全体）	32.3%	58.2%	+25.9 P
1日当たり入院患者数（一般）	26.5 人	20.4 人	△6.1 人
1日当たり外来患者数	173.5 人	119.4 人	△54.1 人
入院診療単価（一般）	32,967 円	30,905 円	△2,062 円
外来診療単価	5,465 円	6,105 円	+640 円
4) 経営の安定性に係るもの			
医師数	6 人	4 人	△2 人
一時借入金残高	620,000 千円	0 千円	皆減
他会計借入金残高	165,000 千円	165,000 千円	—

※病床利用率（全体）については計画値：199 床（一般 92、精神 107）、実績値：35 床（一般 35、精神 0）による算定。実績値：199 床とした場合の病床利用率は 10.2%で、計画値より 22.1%減となる。

(Ⅲ) 数値目標達成に向けての具体的な改革プランの取組計画及び実績 **※加速化プラン追記**

項目	計画	令和元年度実績					
① 浪岡病院の将来のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 当院の現状と今後の地域の医療需要を踏まえ、現在、将来的に持続可能な病院規模・機能について検討を進める。 検討に当たっては、地域医療構想で示された方向性や地域医療調整会議の場で示された取組内容を勘案しつつ、地域住民の皆様の声を伺いながら、慎重に進める。 <p>※加速化プラン</p> <p>【浪岡病院の建替】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域住民の健康管理、疾病の治療や予防の基幹となる病院として、更には高齢者医療にも対応し、地域に密着した施設としての役割を担うため、一般病床35床の規模で建替する。 <p>【一般病床数の適正化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般病床を92床から35床に削減する。 <p>【精神病床の廃止】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神神経科病床は平成30年9月末で廃止するが、外来は継続する。 <p>【医療機能等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き24時間体制で救急患者の受入を行う。 	<p>【新病院の規模等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床数：一般病床 35 床 医療機能：現在の外来診療科を維持、救急告示病院、在宅医療の推進 <p>【令和元年度の建替事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新病院の実施設計や精神神経科病棟等の解体工事を行ったほか、令和2年2月に新築工事、同年3月に機械設備工事及び電気設備工事に着手 新病院建築工事の工期は、R2.2月～R3.3月(14ヶ月) 新病院開業は、R3年5月 <p>《平成30年度に実施済》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年10月1日から一般病床数を92床から35床とし、精神神経科病床は廃止した。 	達成				
② 安定した医療提供体制の確保	<p>【ア 医師、看護師及び医療技術職員の確保対策】</p> <table border="1" data-bbox="405 1563 876 1615"> <tr> <td data-bbox="405 1563 643 1615">医師数</td> <td data-bbox="643 1563 876 1615">6人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 弘前大学に対する医師派遣要望の継続 医師事務作業補助者の増員 看護体制の維持 医療従事者の研修への参加や資格取得等によるスキルアップ 	医師数	6人	<table border="1" data-bbox="876 1563 1270 1615"> <tr> <td data-bbox="876 1563 1139 1615">4人</td> <td data-bbox="1139 1563 1270 1615">△2人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 精神神経科常勤医師が平成31年3月31日付けで退職したものの、非常勤医師により精神神経科外来診療を継続できた。 常勤の小児科医師の確保に至っておらず、現在、非常勤医師による外来診療のみ実施している。 	4人	△2人	未達成
医師数	6人						
4人	△2人						

※加速化プラン 【小児科医の常勤化】 ・地域住民から小児科医の常勤化を望む声もあり、地域の小児救急医療体制の充実を図る視点からも、常勤小児科医の確保に努めていく。		・看護体制については、一般病床の10対1を維持している。 ・資格・研修については、青森県看護協会認定看護管理者教育課程のファーストレベル修了者が1名、学会認定臨床輸血看護師合格者が2名など、スキルアップに努めた。		
【イ 医療機能の維持】 数値目標（再掲）				
救急搬送件数	200件	186件	△14件	
・救急搬送の受入体制の強化 ・医療機器等の更新による医療提供体制の維持		・救急車の受入件数は、前年度に比べ27件減の186件で、目標値を下回った。 ・心電図等を計測するホルタ記録器等を更新し、医療水準の維持・向上に努めた。		未達成
【ウ 在宅医療の充実と福祉・介護事業者との連携強化】 数値目標（再掲）				
訪問看護件数	350件	469件	+119件	
・訪問看護体制の強化 ・地域包括支援センター浪岡をはじめとした福祉・介護事業者等との連携の強化		・訪問看護については、22人の患者に対し469回実施し目標値を上回った。 ・地域包括支援センター浪岡等で開催されたケア会議や研修会に定期的に参加し、福祉・介護事業者との連携強化に努めた。		達成
※加速化プラン 【在宅療養支援病院の認定に向けた検討】 ・浪岡地区の在宅医療の充実を図る。		・平成30年5月から在宅療養支援病院として、訪問診療を開始し、訪問診療は前年度に比べ7人増の22人の患者に対し167回実施した。 《平成30年度に実施済》 ・在宅医療を推進するため、地域連携室の看護師を平成29年度の3名から5名に増員した。		達成

③病院経営を 継続していく ための経営基 盤の構築	【ア 地域連携の強化による紹介患者数の増】数値目標（再掲）				
	紹介率	11.6%	20.1%	+8.5P	
	逆紹介率	11.4%	22.1%	+10.7P	
	・浪岡地区の医療機関等との連携強化・情報共有に努め、紹介率・逆紹介率の向上に努める。		・医療機関との連携強化に努め、紹介率・逆紹介率とも目標値を上回った。		達成
	【イ 患者確保対策】数値目標（再掲）				
	病床利用率（一般）	26.5%	58.2%	+31.7P	
	1日当たり入院患者数（一般）	26.5人	20.4人	△6.1人	
	1日当たり外来患者数	173.5人	119.4人	△54.1人	
	・受診環境の改善や患者サービスの向上に努めることで、患者に選ばれる病院づくりを行っていく。 ・院内のトイレを洋式に更新するなど、利用しやすい環境の提供 ・病床利用率、1日当たり入院患者数、1日当たり外来患者数の目標値の設定		・病床利用率や1日当たり入院患者数については、平成30年度の精神神経科病床の廃止等により、目標値に届かなかったものの、休職していた内科の常勤医師1名が令和元年5月から復職したこと等により、前年度実績（病床利用率：46.6%、1日当たり患者数：16.3人）は上回った。 ・外来患者数については、精神神経科の常勤医師の異動に伴い、同科の診療日数が減ったこと等により目標値を下回った。 《平成30年度に実施済》 ・待ち時間に読書できるよう、市民図書館の協力による貸出文庫を設置した。 ・外来の院内トイレを洋式に更新し、トイレ入口に洋式トイレの配置場所を表示した。		未達成
	※加速化プラン 【接遇向上に向け、市民病院の取組と連携】 ・市民病院の接遇向上に向けた取組を当院でも取り入れる。				達成

【ウ 診療単価の増】数値目標（再掲）			
入院診療単価 （一般）	32,967 円	30,905 円	△2,062 円
外来診療単価	5,465 円	6,105 円	+640 円
<ul style="list-style-type: none"> ・当院で取得可能と考えられる各種加算について、取得要件を満たすことにより取得できるものについては、費用対効果を見ながら取得に努める。 ・診療報酬の請求漏れを防ぐため、定期的に院内研修会を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入院診療単価は、平均在院日数が 16.7 日と前年度に比べ 2.9 日長くなった影響等もあり、目標値を下回った。 ・令和 2 年度の診療報酬内容について、関係するセクションに個別説明を行った。 	未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・外来診療単価は、訪問診療件数の増などにより目標値を上回った。 	達成
【エ 経費の削減対策】			
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な在庫管理、価格交渉等により材料費の削減 ・長期継続契約の推進による経費削減 		<ul style="list-style-type: none"> ・薬品及び診療材料については、市民病院で一括して価格交渉を行っており、市民病院と（同品目については、）同額で契約したことにより、経費削減を図った。 <p>《平成 29 年度から実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 1 月より、材料のたな卸しを毎月行うなど、在庫管理の適正化に努めた。 	達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・現施設の一部の設備の保守点検について、3 年間の長期継続契約から単年契約に切り替えたため評価は未達成としたが、これは、新病院開業の時期を当初令和 2 年 12 月予定としていたものによる。 	未達成

(IV) 各年度の収支計画

別紙 2 のとおり

病院事業会計全体

令和元年度決算における市民病院及び浪岡病院を合算した病院事業全体としては、経常損失が1,039,763千円、一般会計からの基準外繰入金を含めた純利益は225,729千円となり、資金不足比率は17.4%で、前年度と比較して1.7ポイント改善したところですが、依然として、資金不足比率が10%を超えており、地方財政法に基づく「起債許可団体」となっています。

両院とも「改革プラン」や「加速化プラン」における経営改善に向けた取組を着実に進めてきていますが、更なる経営改善に努めていきます。

6 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（市民病院、浪岡病院）

青森市は、「青森市高齢者福祉・介護保険事業計画 第7期計画（平成30年度～平成32年度）」において、団塊の世代が高齢者となる令和7年（2025年）を見据え、中長期的な視点に立ち「医療、介護、介護予防、住まいおよび日常生活の支援」が包括的に確保される地域包括ケアの取組を加速化させているところです。

市民病院は、今後においても地域の医療体制の中で急性期を担う中核病院としての役割を果たし、浪岡病院は、地域包括ケアシステムの中核として、地域住民が住み慣れた場所で安心して日常生活を送れるよう、在宅医療の推進と地域連携室の体制強化を行うことで、地域包括ケアシステム構築に向けた役割を果たしていきます。

7 再編・ネットワーク（市民病院、浪岡病院）

青森市及び東青地区からなる青森地域保健医療圏の公立病院は、市民病院、浪岡病院のほか、平内町国保平内中央病院、外ヶ浜町国保外ヶ浜中央病院、三次医療を担う青森県立中央病院があります。

地域医療構想を踏まえ、市民病院においては、近年の病床の利用状況や、今後の医療需要を勘案し、平成30年10月1日から病床規模の適正化を図るため病床数を538床から459床に見直したところです。地域医療ニーズに合わせた高度医療及び専門医療の提供については、地域中核病院として、種々の分野で役割を果たしており、引き続き、急性期機能を中心に地域医療支援病院としての役割を担っていきます。

また、浪岡病院においても、近年の病床の利用状況や、今後の医療需要を勘案し、平成30年10月1日から一般病床数を92床から35床に見直しし、精神神経科病床は廃止しました。

現在、令和3年5月の新病院開院に向け、建替事業を進めているところであり、在宅療養支援病院として、引き続き在宅医療の提供や在宅療養の支援を行い、地域包括ケアシステムの中核としての役割を担っていきます。

8 経営形態見直し（市民病院、浪岡病院）

民間的経営手法の導入を図る観点から、地方公営企業法の全部適用や地方独立行政法人への移行等の経営形態の見直しについては、両病院が自立した経営を行える目処が立った段階で検討します。

9 自己評価

令和元年度実績として、市民病院においては、患者紹介率の増や材料費医業収益比率の減など、浪岡病院においては、外来診療単価の増や訪問看護件数の増など、目標に達した項目はあったものの、両院とも1日当たり入院患者数及び1日当たり外来患者数が目標に達しなかったこともあり、病院事業会計全体での経常損益及び純損益が計画値を下回り、その結果、資金不足比率も計画値を下回ったところです。

しかしながら、平成29年12月「加速化プラン」を策定し「改革プラン」の具現化・加速化を図り、その取組を着実に進めてきた結果、市民病院及び浪岡病院とも、ここ数年大きく減少してきた診療収入及び患者数は、下げ止まり傾向を見せており、令和元年度においては増加に転じたところです。

今後も、経営改善に向けた取組を着実に進めるとともに、一般会計からの支援を受けつつ、資金不足解消と黒字化を目指していきます。

【令和2年度の主な取組】

市民病院においては、令和2年3月には、看護師の夜勤体制を維持するため、1病棟を休棟し、稼働病床を405床として運用しているところですが、災害拠点病院として災害時のライフラインの維持と確保等を図るため、既設の井戸から汲み上げた地下水を高度浄水処理する設備を整備するとともに、地域医療支援病院として地域の診療所などの後方支援や相談機能の充実を図るため、入院支援機能、患者支援機能などを地域医療連携室に統合し、体制を強化したところであり、集患対策などの経営改善につなげていくこととしています。

また、浪岡病院においても、新病院の建替事業を着実に進める一方で、令和2年6月から「オンライン診療」を開始し、「かかりつけ医機能の強化」及び「在宅での医療提供体制の強化」を図ってきたところであり、今後、令和3年5月の新病院の開業、また、「ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト」の拠点機能が付加されることから、集患効果による経営改善を図りつつ、地域に密着した病院としての役割はもとより、地域包括ケアシステムの中核としての役割も果たしていきたいと考えています。

今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う、患者数の大幅な減少により、これまで以上に病院経営が厳しさを増しているところではありますが、新型コロナウイルス感染症対策を強化し、より安全な医療の提供体制の再構築に病院あげて取り組んでいきます。

また、そのなかであっても、将来収支を見据えた経営改善方策を検討しながら、引き続き、経営改善に取り組んでいきます。

(別紙1)

団体名
(病院名)

青森市(青森市民病院)

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:千円、%)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 医 業 収 益 a	9,038,659	8,963,288	10,202,084	8,986,816	△ 1,215,268
	(1) 料 金 収 入	8,609,710	8,520,718	9,768,181	8,526,984	△ 1,241,197
	(2) そ の 他	428,949	442,570	433,903	459,832	25,929
	うち 他 会 計 負 担 金	239,053	267,606	232,887	273,299	40,412
	2. 医 業 外 収 益	925,983	946,767	1,014,511	902,867	△ 111,644
	(1) 他 会 計 負 担 金・補 助 金	425,068	397,157	418,030	374,207	△ 43,823
	(2) 国 (県) 補 助 金	21,615	17,305	30,145	19,232	△ 10,913
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	309,020	334,855	405,642	345,642	△ 60,000
	(4) そ の 他	170,279	197,450	160,693	163,786	3,093
	経 常 収 益 (A)	9,964,642	9,910,055	11,216,595	9,889,683	△ 1,326,912
支 出	1. 医 業 費 用 b	10,138,153	9,983,440	10,963,886	10,238,172	△ 725,714
	(1) 職 員 給 与 費 c	5,296,766	5,232,852	5,558,614	5,440,325	△ 118,289
	(2) 材 料 費	2,484,340	2,382,151	2,861,077	2,378,110	△ 482,967
	(3) 経 費	1,611,984	1,624,584	1,548,497	1,631,092	82,595
	(4) 減 価 償 却 費	696,911	673,173	927,074	681,000	△ 246,074
	(5) そ の 他	48,153	70,680	68,625	107,645	39,020
	2. 医 業 外 費 用	446,786	487,235	520,893	490,123	△ 30,770
	(1) 支 払 利 息	4,740	3,306	35,065	2,459	△ 32,606
	(2) そ の 他	442,047	483,929	485,828	487,664	1,836
	経 常 費 用 (B)	10,584,939	10,470,675	11,484,779	10,728,295	△ 756,484
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	△ 620,297	△ 560,620	△ 268,184	△ 838,612	△ 570,428	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	100,402	285,732	0	462,334	462,334
	2. 特 別 損 失 (E)	5,266	88	0	21	21
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	95,136	285,644	0	462,313	462,313
純 損 益 (C)+(F)	△ 525,161	△ 274,975	△ 268,184	△ 376,299	△ 108,115	
累 積 欠 損 金 (G)	5,017,980	5,292,956	5,327,274	5,669,255	341,981	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	1,960,250	1,840,408	1,925,071	1,789,131	△ 135,940
	流 動 負 債 (イ)	2,971,620	3,150,333	2,717,849	3,484,857	767,008
	うち 一 時 借 入 金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	1,900,000	100,000
	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)	0	0	0	0	0
	当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)	0	0	0	0	0
差 引 不 良 債 務 (オ) [(イ)-(エ)]-[(ア)-(ウ)]	1,011,370	1,309,925	792,778	1,695,726	902,948	
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	94.1	94.6	97.7	92.2	△ 5.5	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	11.2	14.6	7.8	18.9	11.1	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	89.2	89.8	93.1	87.8	△ 5.3	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	58.6	58.4	54.5	60.5	6.0	
地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 に よ り 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (H)	1,011,370	1,309,925	792,778	1,695,726	902,948	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	11.2	14.6	7.8	18.8	11.0	
病 床 利 用 率	57.9	66.5	67.0	67.9	0.9	

団体名 (病院名)	青森市(青森市民病院)
--------------	-------------

2. 収支計画(資本的収支)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 企業債	262,100	767,900	522,200	1,459,100	936,900
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0
	3. 他会計負担金	285,211	311,513	378,398	317,340	△ 61,058
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0
	6. 国(県)補助金	0	0	0	0	0
	7. その他	0	5,881	0	0	0
	収入計 (a)	547,311	1,085,294	900,598	1,776,440	875,842
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0
純計(a)-(b)+(c) (A)	547,311	1,085,294	900,598	1,776,440	875,842	
支 出	1. 建設改良費	211,659	705,584	483,519	1,310,469	826,950
	2. 企業債償還金	592,047	626,482	755,652	667,491	△ 88,161
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0	0
	4. その他	16,558	54,160	38,681	112,759	74,078
	支出計 (B)	820,263	1,386,226	1,277,852	2,090,719	812,867
差引不足額 (B)-(A) (C)	272,952	300,932	377,254	314,279	△ 62,975	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	23,647	36,105	0	0	0
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0
	4. その他	249,305	264,827	377,254	314,279	△ 62,975
計 (D)	272,952	300,932	377,254	314,279	△ 62,975	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	

- 複数の病院を有する事業にあっては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し(高等看護学院分除く)

	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
			計画	実績	計画との乖離
収益的収支	(100,000) 764,121	(252,710) 914,763	(0) 650,917	(460,000) 1,107,506	(460,000) 456,589
資本的収支	(7,105) 285,211	(5,720) 311,513	(0) 378,398	(1,056) 317,340	(1,056) △ 61,058
合計	(107,106) 1,049,332	(258,430) 1,226,276	(0) 1,029,315	(461,056) 1,424,846	(461,056) 395,531

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。

(別紙2)

団体名
(病院名)

青森市(青森市立浪岡病院)

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:千円、%)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 医 業 収 益 a	714,118	551,250	874,021	567,704	△ 306,317
	(1) 料 金 収 入	603,179	411,782	757,313	423,023	△ 334,290
	(2) そ の 他	110,939	139,468	116,708	144,682	27,974
	うち他会計負担金	89,252	119,531	88,551	125,999	37,448
	2. 医 業 外 収 益	248,348	164,023	238,080	91,179	△ 146,901
	(1) 他会計負担金・補助金	220,282	135,082	218,790	71,150	△ 147,640
	(2) 国(県)補助金	0	0	0	0	0
	(3) 長期前受金戻入	27,328	28,401	18,465	17,417	△ 1,048
	(4) そ の 他	738	540	825	2,612	1,787
	経 常 収 益 (A)	962,466	715,273	1,112,102	658,884	△ 453,218
支 出	1. 医 業 費 用 b	1,136,310	905,889	1,099,862	836,321	△ 263,541
	(1) 職 員 給 与 費 c	788,922	610,869	712,777	564,468	△ 148,309
	(2) 材 料 費	110,995	74,628	146,234	68,275	△ 77,959
	(3) 経 費	186,123	167,283	192,820	167,669	△ 25,151
	(4) 減 価 償 却 費	49,065	44,935	46,552	34,233	△ 12,319
	(5) そ の 他	1,205	8,175	1,479	1,676	197
	2. 医 業 外 費 用	26,767	21,746	33,144	23,714	△ 9,430
	(1) 支 払 利 息	879	435	2,643	203	△ 2,440
	(2) そ の 他	25,888	21,311	30,501	23,511	△ 6,990
	経 常 費 用 (B)	1,163,077	927,635	1,133,006	860,035	△ 272,971
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	△ 200,611	△ 212,362	△ 20,904	△ 201,151	△ 180,247	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	101,292	404,260	0	803,409	803,409
	2. 特 別 損 失 (E)	0	218,091	20	229	209
	特別損益(D)-(E) (F)	101,292	186,169	△ 20	803,180	803,200
純 損 益 (C)+(F)	△ 99,319	△ 26,194	△ 20,924	602,029	622,953	
累 積 欠 損 金 (G)	1,510,633	1,536,826	1,608,927	934,797	△ 674,130	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	124,659	80,094	139,091	205,706	66,615
	流 動 負 債 (イ)	643,363	588,001	798,997	175,786	△ 623,211
	うち一時借入金	450,000	420,000	620,000	0	△ 620,000
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 差引 不良債務 (オ)	0	0	0	0	0
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	82.8	77.1	98.1	76.6	△ 21.5	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	72.6	92.1	75.5	△ 5.2	△ 80.8	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	62.8	60.9	79.5	67.9	△ 11.6	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	110.5	110.8	81.6	99.4	17.9	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	518,704	507,907	659,906	—	皆減	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	72.6	92.1	75.5	—	解消	
病 床 利 用 率	23.2	46.6	32.3	58.2	25.9	

団体名 (病院名)	青森市(青森市立浪岡病院)
--------------	---------------

2. 収支計画(資本的収支)

区分	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
				計画	実績	計画との乖離
収 入	1. 企業債	7,800	52,800	10,000	262,800	252,800
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0
	3. 他会計負担金	20,657	19,611	12,688	14,061	1,373
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0
	6. 国(県)補助金	0	0	0	1,408	1,408
	7. その他	0	0	0	0	0
	収入計 (a)	28,457	72,411	22,688	278,269	255,581
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0
純計(a)-(b)+(c) (A)	28,457	72,411	22,688	278,269	255,581	
支 出	1. 建設改良費	9,359	76,881	11,199	245,442	234,243
	2. 企業債償還金	33,024	34,642	22,602	23,123	521
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0	0
	4. その他	629	5,768	0	20,711	20,711
	支出計 (B)	43,012	117,290	33,801	289,277	255,476
差引不足額 (B)-(A) (C)	14,555	44,879	11,113	11,008	△ 105	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	0	44,879	0	11,008	11,008
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0
	4. その他	14,555	0	11,113	0	△ 11,113
計 (D)	14,555	44,879	11,113	11,008	△ 105	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	

1. 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。

2. 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度		
			計画	実績	計画との乖離
収益的収支	(100,000)	(350,000)	(0)	(803,409)	(803,409)
	409,534	604,613	307,341	1,000,558	693,217
資本的収支	(878)	(968)	(0)	(2,500)	(2,500)
	20,657	19,611	12,688	14,061	1,373
合計	(100,878)	(350,968)	(0)	(805,909)	(805,909)
	430,191	624,224	320,029	1,014,619	694,590

(注)

1 ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。